

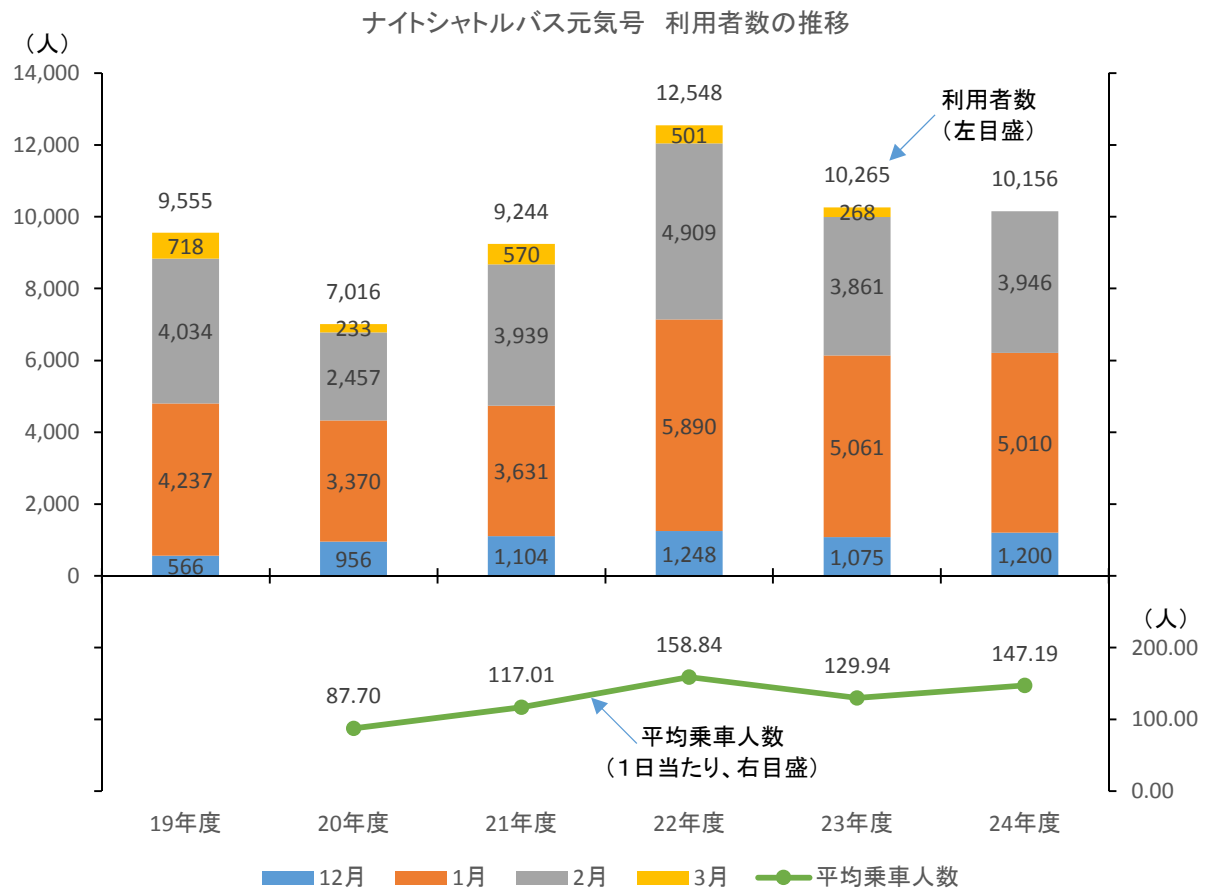
資料第3号

2012-13（平成24年度）ナイトシャトルバス元気号の運行実績について

運行内容の比較

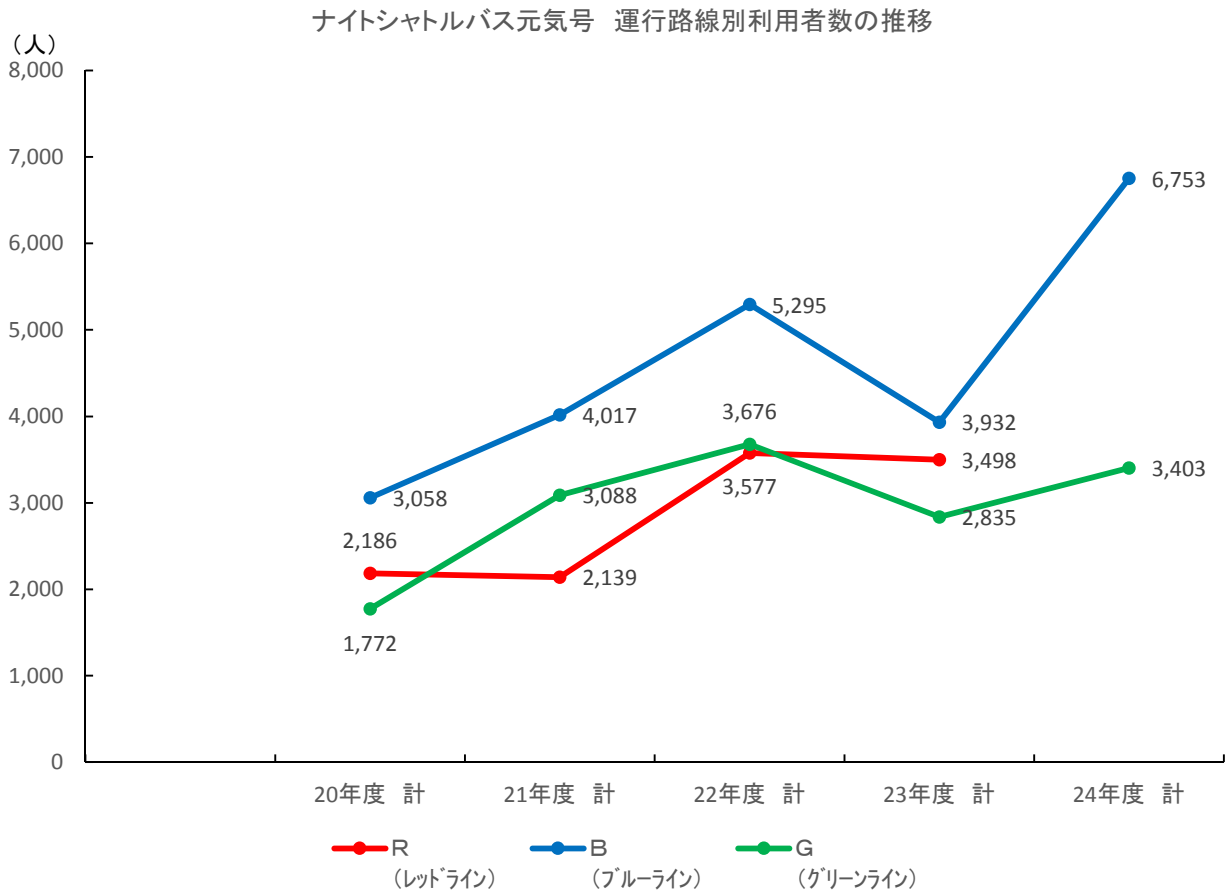
項目	21年度	22年度	23年度	24年度
運行期間	H21.12.19～H22.3.7 79日間	H22.12.18～H23.3.6 79日間	H23.12.17～H24.3.4 79日間	H24.12.22～H25.2.28 69日間
停留所	30停留所	30停留所	31停留所	26停留所
運行時間 運行便数	ブルーライン 16:40～21:45 5便	ブルーライン 17:40～23:20 5便	ブルーライン 17:40～22:09 4便	ブルーライン 17:40～22:09 4便
	レッドライン 18:35～23:23 4便	レッドライン 18:10～23:16 4便	レッドライン 18:10～23:16 4便	
	グリーンライン 16:20～21:56 4便	グリーンライン 17:00～21:42 3便	グリーンライン 17:00～21:42 3便	グリーンライン 17:50～22:46 3便
利用料	200円/回 (大人・小人一律) 未就学児童6歳未満無料	200円/回 (大人・小人一律) 未就学児童6歳未満無料	200円/回 (大人・小人一律) 未就学児童6歳未満無料	200円/回 (大人・小人一律) 未就学児童6歳未満無料
回数券	－	6枚綴り、1,000円	6枚綴り、1,000円	6枚綴り、1,000円
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・出発地を和田野17AからJR白馬駅を起点とした ・学生が利用できるようにダイヤを1時間早めた ・利用料金を300円から200円に変更した 	<ul style="list-style-type: none"> ・回数券の販売を開始した 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス及び停留所看板へ村内の各会社の社名及び電話番号を標記した ・停留所にみそら野公園前を追加した 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗車実績の少ないバス停が多い1路線（レッドライン）を休止した ・運行期間を短縮した

1. 利用者数の推移



- ・平成 24 年度は、路線数は 3 本から 2 本へ縮小、運行日数は 79 日から 69 日へ短縮、運賃額は据置 (200 円/回) で運行
- ・平成 24 年度の利用者数は、路線数の縮小や運行日数の短縮があるも前年度並み
- ・1 日当たりの平均乗車人数は増加傾向
- ・平成 24 年度における 1 日当たりの平均乗車人数が最も多い月は 1 月 (161.61 人/日)
- ・月別にみた平均乗車人数の動きは、外国人観光客の延宿泊者数調査 (白馬村観光局) の結果のうちの月別データと合致

2. 運行路線別の利用者数の推移



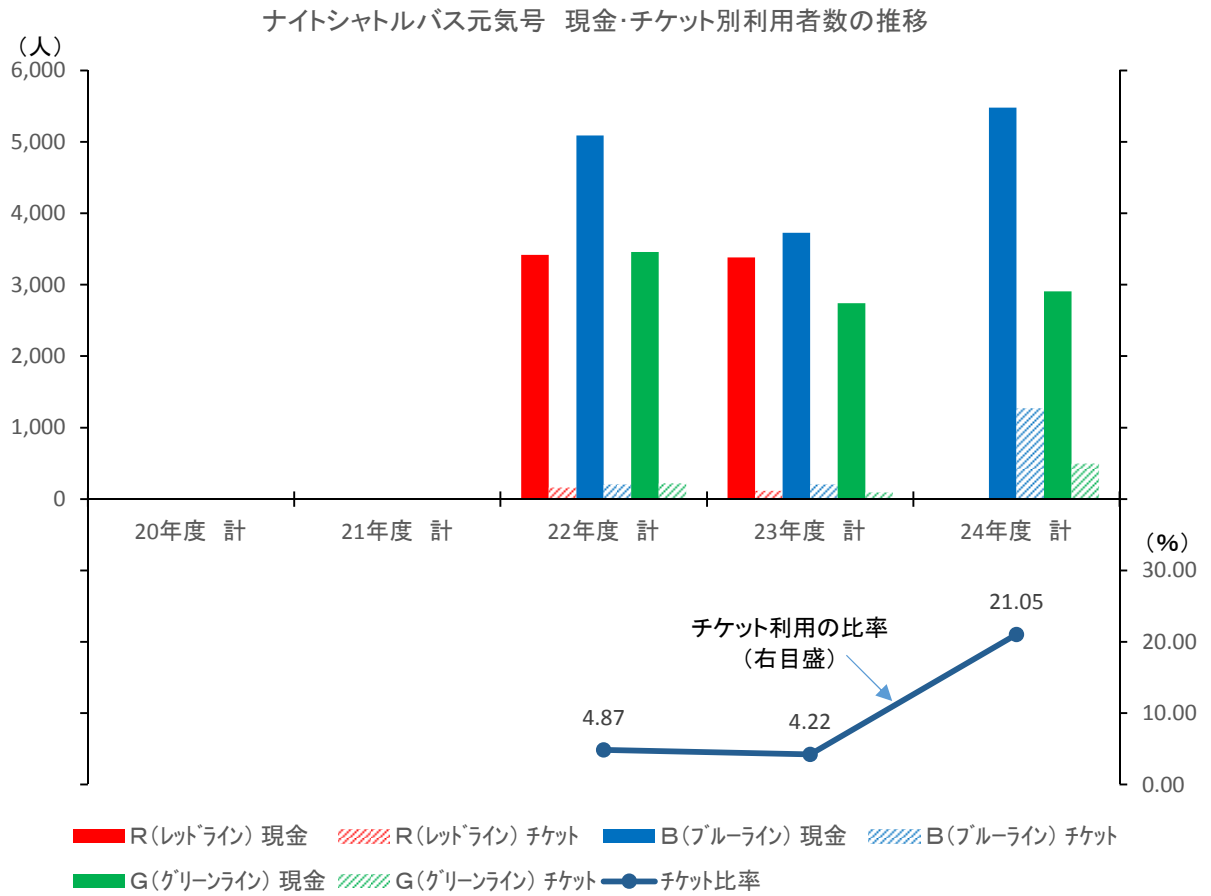
- ・2ラインともに乗車人数は増加、特にブルーライン（中部エリア左回り）は急増
- ・ブルーラインの乗車人数は前年比 171.7%、グリーンラインは前年比 120.0%

それぞれのラインを便別にみると、

	ブルーライン			グリーンライン		
	23年度	24年度	前年比 (%)	23年度	24年度	前年比 (%)
1 便	1,241	1,911	154.0	927	1,607	173.4
2 便	1,392	2,215	159.1	1,145	1,326	115.8
3 便	920	1,556	169.1	763	470	61.6
4 便	379	1,071	282.6	-	-	-
計	3,932	6,753	171.7	2,835	3,403	120.0

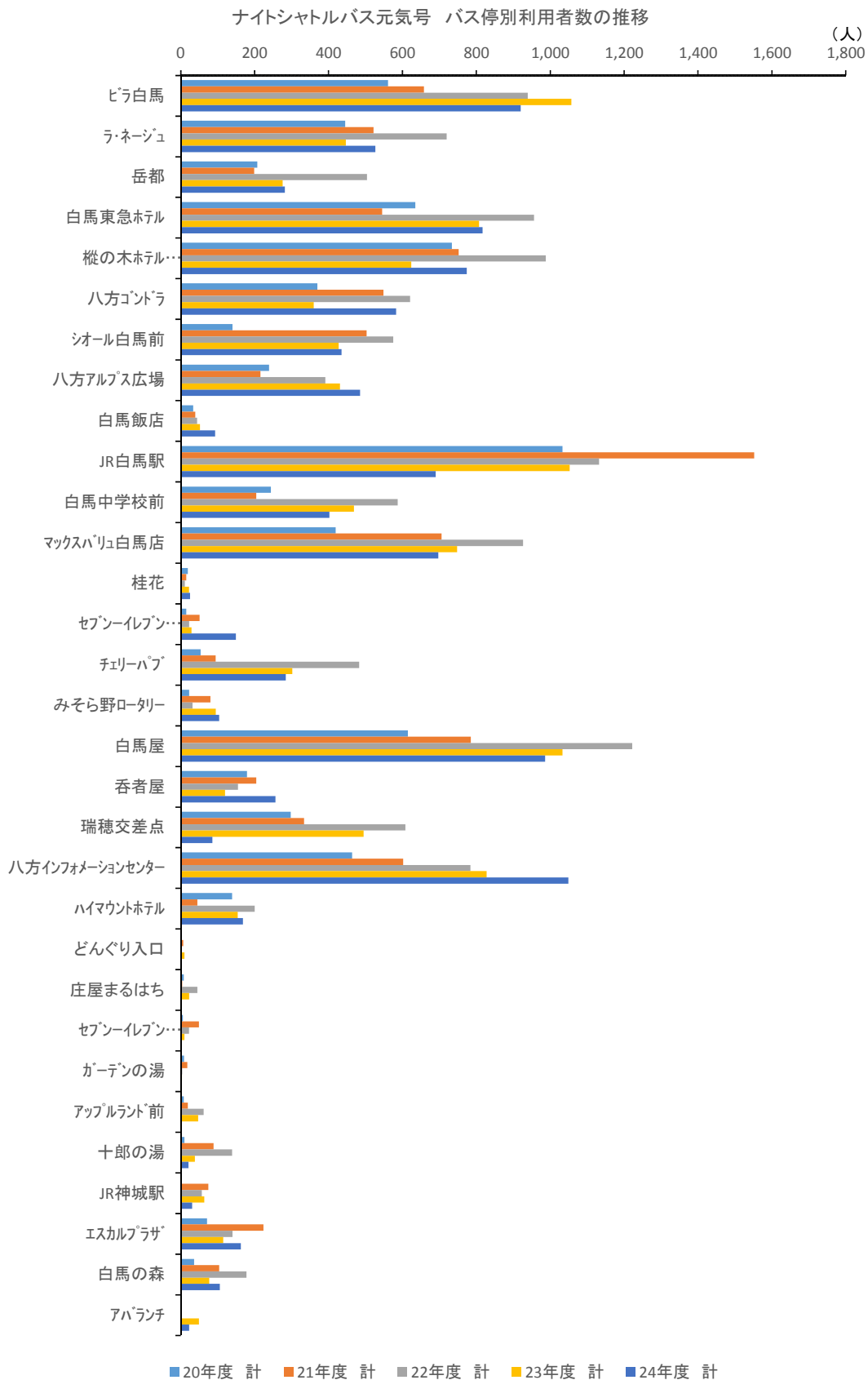
- ・ブルーラインは、全便が前年比 150%超、4 便（21:10 発）に限っては 282.6%
- ・前年比 200%超は、12 月においては 3 便と 4 便、1 月においては 4 便、2 月においては 4 便、特に 1 月の 4 便は前年比 344%
- ・グリーンラインでは、1 便（17:50 発）が前年比 173.4%に対して 3 便（21:20 発）は 61.6%

3. 現金・チケット別の利用者数の推移



- ・平成 24 年度は収益向上と運行資金の確保をねらい、回数券の販売促進を実施
- ・606 セット（6 枚綴り・1,000 円）を販売、チケット収入は 606,000 円
- ・平成 23 年度のチケット収入 77,000 円に対して、平成 24 年度は 606,000 円、収益向上と運行資金の確保には貢献
- ・チケット利用の比率は大幅に向上したものの、販売したチケットのうち、利用されたチケットは 353,200 円（58.3%）

3. バス停別の利用者数の推移



- 和田野地区から中部エリア（JR白馬駅、深空、八方、エコーランド）へ、といった流れ
- 平成 24 年度は、八方方面（ゴンドラ、アルプス広場、インフォメーションセンター）の利用が増

加

4. 運賃収入と運行経費の推移

(運賃収入)

(単位：円)

	21年度	22年度	23年度	24年度
運賃収入	1,848,800	2,509,600	2,053,000	1,678,000
レッドライン	427,800	715,400	699,600	
ブルーライン	803,400	1,059,000	786,400	1,096,400
グリーンライン	617,600	735,200	567,000	581,600
チケット販売収入		126,000	77,000	606,000
計	1,848,800	2,635,600	2,130,000	2,284,000

・路線数の縮小や運行日数の短縮があるも利用数は前年度並みであったほか、回数券の販売促進も奏功し、チケット販売収入を含めた運賃収入はわずかに増加

(運行経費)

(単位：円)

	21年度	22年度	23年度	24年度
バス運行費用	8,328,180	8,328,180	8,328,180	4,636,800
日数	79	79	79	69
単価				
レッドライン	35,490	35,490	35,490	33,600
ブルーライン	35,490	35,490	35,490	33,600
グリーンライン	34,440	34,440	34,440	
費用				
レッドライン	2,803,710	2,803,710	2,803,710	2,318,400
ブルーライン	2,803,710	2,803,710	2,803,710	2,318,400
グリーンライン	2,720,760	2,720,760	2,720,760	
時刻表作成費	220,500	220,500	220,500	194,250
バスチケット作成費	357,000	148,050	148,050	147,000
バス停看板作成費	412,650			389,550
バス電光掲示板作成費	31,500			
バスマグネットシート作成費	73,500	88,200	126,000	
バス停時刻表変更		409,500	519,225	
バスチケット販売所表示シール		105,000	89,250	
諸経費		18,070		16,614
計	9,423,330	9,317,500	9,431,205	5,384,214

・路線数の縮小と運行期間の短縮により、約4,000千円の経費を削減

5. 来シーズンの運行に向けて

平成 25 年 5 月 14 日 (火)、白馬村地域公共交通 観光交通システム検討委員会を開催し、2012-13 (平成 24 年度) ナイトシャトルバス元気号の運行実績を報告するとともに、来シーズンの運行に向けて意見交換を行ったところ、委員からは次の意見が出された。

- ・まず、来シーズンの外国人観光客は、為替の状況や原発に対する心配が薄れてきたことを映じて、大幅に増加する見込み
 - ・運賃収入の増加によって運行経費を確保するため、運賃を 300 円とする、円安傾向が進んでいることから今シーズン並の利用実績を確保できると予想
 - ・ブルーラインとグリーンラインの 2 ラインとし、休止していたレッドラインは廃止とする
 - ・これまでの利用実績をみながら、実績を反映したルートや停留所の配置とする
 - ・今シーズンは、出発地点である和田野エリアで満車になってしまい、乗り残してしまうケースが 1 月中は毎日、2 月上旬までみられたので、これを解消するため、来シーズンは 2 台運行をベースにするが、繁忙期に限って運行台数を増加できるような体制とする
 - ・運行期間は、2012-13 シーズンと同様にクリスマス頃から翌 2 月末までとする
- ・以上のような意見を尊重しながら、2013-14 (平成 25 年度) ナイトシャトルバス元気号の運行計画を作成していく